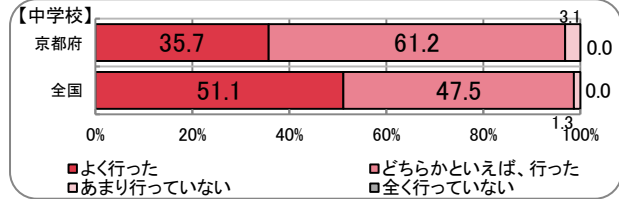
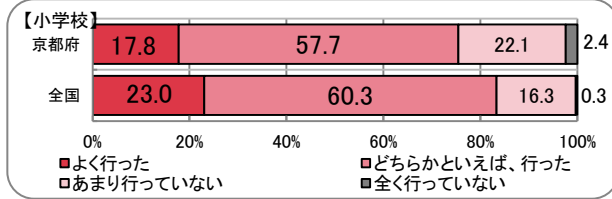


## (4) 学力向上に向けた取組・指導方法

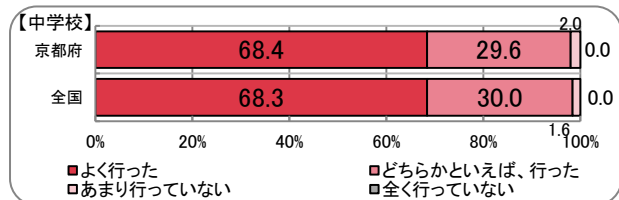
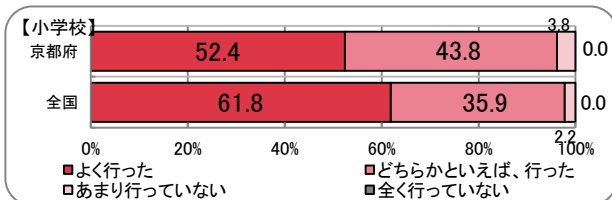
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP60参照

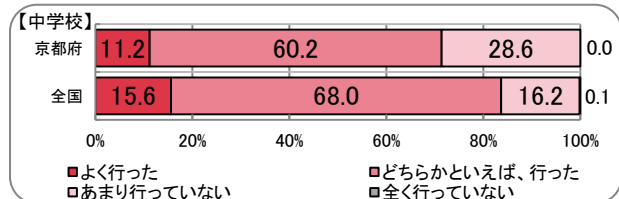
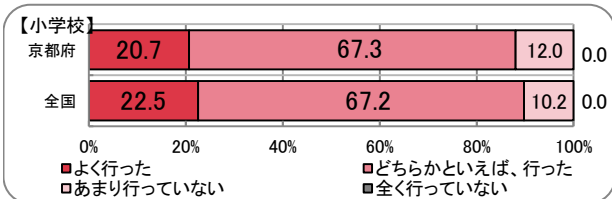
**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。**



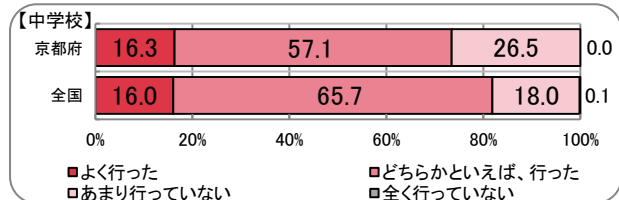
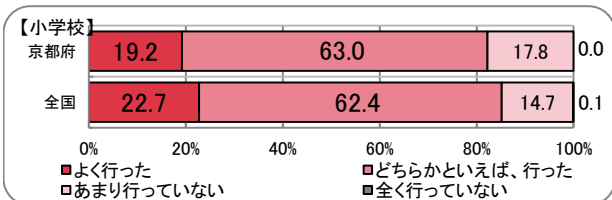
**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか。**



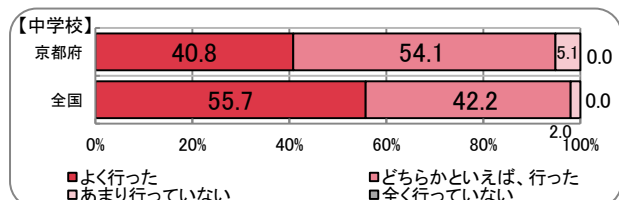
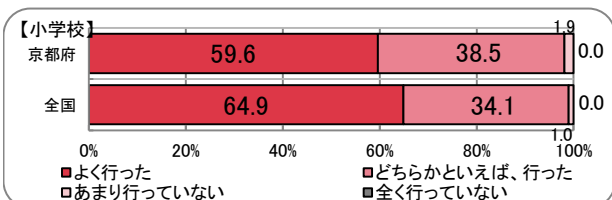
**Q3: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。**



**Q4: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度に、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。**



**Q5: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。**



**分析** Q2「学習規律の維持の徹底」の肯定的回答の割合は、小学校は全国平均よりも低いが、中学校は同程度である。Q5「よい点や可能性を見付け評価する(褒める)取組」の肯定的回答の割合は小中学校とも全国平均より低く、児童生徒質問P55「3 自尊感情」の結果とも結びついている。また、Q1「将来就きたい仕事や夢について考えさせる」の肯定的回答の割合も小中学校とも全国平均より低いが、こうした指導は「学びに向かう力、人間性等」にも関わるので、改善が必要である。